

〈きらめきインタビュー〉
自治医科大学とちぎ子ども医療センター長 桃井真里子さん
〈特集〉オトコの食育 ～50のてならい～

2017.3

第5号

Sharing

シェアリング ～わかちあい～

下野市男女共同参画情報紙

きらめきインタビュー



女性が仕事を持ちながら、家庭との両立をされている方ということで、自治医科大学附属病院の管理職や医師をなさっている 桃井真里子 さんにお話をお伺いしました。

質問の要点は、以下のとおりです。

- (1) 医師として働いている立場、センター長として職員を管理する立場からのこと。
- (2) 女性としての立場、母親としての立場からのこと。
- (3) 仕事と家庭をどのように両立させてきたのか。

＜プロフィール＞

東京大学卒業・同大学院修了。
フィラデルフィア小児病院・メイヨークリニック神経科・自治医科大学に勤務。
専門は、小児科学・小児神経学・臨床分子遺伝学。
ミトコンドリア異常症（MELAS）の原因遺伝子や自閉症の病因遺伝子の同定などの研究業績がある。

特集 『オトコの食育 ～50のてならい～』

- (1) 男性の料理教室
 - 石橋地区の「男子厨房に入ろう会」
 - 国分寺地区の「男の料理教室」会員の方に、実践している様子やお話をお伺いしました。
- (2) 下野市健康増進課 管理栄養士の笠野恵里さんにお話をお伺いしました。
健康管理について、下野市の計画や現状と、実践していることなどを詳しくお聞きしました。



タイトル由来

みんなが“わかちあう”大切さをもって、男女が協力しながら、男女共同参画社会をつくっていかれたらとの願いが込められています。

★ ★ ★ きらめきインタビュー ★ ★ ★

桃井 真里子 さん

自治医科大学医学部長・小児科学教授
とちぎ子ども医療センター長にお話を伺いました。



とちぎ子ども医療センターの役割について



大学病院における高度小児医療だけでは、子どもの病気全部を包括できない状況があり、時には東京などの高度小児医療施設で手術や通院が必要となるなど、地域の高度小児医療環境は整っていませんでした。

そこで、栃木県に小児の高度医療を行える病院をと、大学病院の機能に小児病院機能を加え、子どものあらゆる病気に対応できる専門医・専門施設による医療体制を整えるべく建てられたのが、「とちぎ子ども医療センター」です。

道路を挟んで向かい側にある「ドナルド・マクドナルド・ハウス(とちぎハウス)」をご存じですか?世界中で300数か所あり、日本では5番目にできた、国内初の大学病院におけるハウスです。ドナルド・マクドナルド・チャリティー財団により、とちぎ子ども医療センターのために作られ、子どものご家族が看病に専念できるようサポートするために運営されています。毎年約180名の地域ボランティアの方が医療の環境作りに活躍されており、患者さんとご家族の精神的ケアの面でプラスになっています。



ハウス内の様子



この建物の3階にあります

病院内で働く女性の現状について

平成19年に女性医師支援センターが自治医大に開設されました。医療は24時間体制ですから、当直もあり、診療は深夜に及ぶこともあったりと、大変不規則な勤務になっています。こういった状態で、育児しながらキャリアを貫徹するのは大変なことです。このセンターの支援により、例えば、緊急の必要性がある場合には、保育ルームに子どもを預けて手術などの診療に臨むことも可能です。さらに、育児のために一時期キャリアを中断しなくても済む短時間勤務体制や、復職支援をしながら仕事と育児が両立できる体制をセンターで提供しています。

また、ここは地域に開かれたセンターでもあり、時間に余裕のある市民の方々が、保育パパや保育ママとして保育士の方と一緒にボランティアとして活動するなど、女性医師や看護師にとって非常に頼もしい存在でもあります。

男性及び職業社会の意識改革が必要!

日本では往々にして「女性だけが両立」といわれるところが、欧米とは違うところ。男性も仕事と育児の両立をすることが一番大切なことなのです。もちろん、男性の多くは企業戦士として働いているので、大変であることはわかっています。

しかし、女性だけが両立という意識では、医者などの職業は成り立ちません。

「男性社会と職業社会全体」の意識改革が大事なことです。男性が育児休暇を取ると、人生や社会について気付く事もいっぱいあるわけで、男性が育児休暇を取るのは困るというのは、「むしろ社会の損失になるぞ」という意識が必要だと思います。

働く女性を地域が支援する

育児だけではなく、家事全般が女性の担当のように言われます。また、最近は「食育」が盛んに言われ、30種類の食材を毎日、手作りで、などということとキャリア人生は両立不可能です。大都会では駅ナカ等に多数の惣菜売り場があり、それはそれで仕事を持って暮らす人々への応援だと思えます。私は東京の下町で育ちましたが昔も商店街などでは女将さんは忙しくて、手作りなど毎回していただけないために、惣菜を買ってきて食卓を賄うという夕食の姿がありました。地域の商店街が消えていき、家事を支える地域の力がなくなりました。コンビニ食品ではなく、家庭の食事や家事をどうやって地域で支援するか、働く女性だけではなく単身赴任者やひとり親家庭の家事労働をどうやって地域で支援できるか、考える時代だと思います。



地域の力を活用する時代です

子ども医療センターでは、地域のボランティアの方々から外来や病棟で、また園芸活動で大変活躍されています。ボランティアの方々には医療を理解し、支援していただくことで、医療機関が市民に開かれた姿になることが理想です。

ボランティアの方々で医療現場におられて、患者さんや家族の支援をすることは、常に厳しい現実である医療に優しい雰囲気が増えられて、実際にボランティアの方々の存在は、患者さんや、ご家族の方々にとっても感謝されています。また、ボランティアをしている方も、その時間を大変貴重に感じてください、お互いに感謝し合いながら、センターができて以来4年間ボランティアを続けていただいております、地域と市民の力と品位を感じています。



育児休暇の在り方について

医療職は看護師の大部分は女性ですし、医師も女性が増えてきています。医学生も女性の割合が35%位になっています。今や医療は、女性の力を最大限活用しないと成り立ちません。

大学病院では、育児休暇は多くの女性医師が取得できていますし、女性医師の働き方には、だいぶ理解ができてきたように思います。また、女性医師のプロ意識の確立も同時に必要です。

私自身は、育児や介護等と仕事との両立については、フランスのように国家が積極的に支援対策に財政を投入すべきだと思います。日本でも「男性は育児休暇を3か月必ず取得する」などというような社会の合意があればよいと思います。行政などが率先して規則などを無理矢理変えない限り、両立が女性だけのものだという現実是不会変わらないと思います。

取材を終えて!

医療の現場は想像以上に、いろんなことで不規則な勤務状況であることがわかりました。そのための支援体制を構築していることや、とりわけ地域のボランティアの方の存在が大きな役割を担っているということもわかりました。医療現場を支える医療スタッフや患者さんの支えになっている地域のボランティアの方たちが、安心して協力ができるような体制作りと諸法の整備などが重要なことであると感じました。

担当：中川美恵子・楡木悦夫





下野市健康増進課
管理栄養士 笠野恵里さん
にお話を伺いました。

「男性の食の自立」を目指しています。

下野市では、平成19年に「健康しもつけ21プラン」を策定しました。この計画は、市民一人ひとりが「自分の健康は自分でつくる」という意識をもって、主体的に健康づくりに取り組み、その個人の取り組みを、家庭、学校、職場、行政が一体となって支え、地域全体で健康づくりを推進するというものです。

策定の前に行ったアンケートでは、特に、男性の塩分の取りすぎや、50代男性、60代女性の肥満の割合が高いという結果がでました。

死因順位でみると、一位「がん」、二位「脳血管疾患」、三位「心疾患」となり、栃木県の二位「心疾患」、三位「脳血管疾患」と逆になっています。さらに「腎不全」や「糖尿病」の死亡順位も高くなっています。「これは、塩分と脂肪の多い食事が原因です。減塩と栄養バランスのとれた食事を心がけましょう。」と笠野さんからお話がありました。

また、市の取り組みとしては、男性の料理教室も開催しています。参加された方は、食生活の改善以外にも運動や料理以外の家事をしたり、仲間作りや地域活動に積極的に取り組むようになるなど変化が見られたそうです。

「男性は、退職すると食が乱れます。市の健診を受け、問題があった場合は特定保健指導に参加してください。自分で料理をするようになると食生活が改善します。料理教室もご夫婦で参加するのいいですね！」と勧めていました。

担当：山口容子・楡木悦夫



男子厨房に入ろう会



きらら館で調理中

「男子厨房に入ろう会」の会員は22名で、偶数月に年6回開催しています。

講習時間は概ね9時30分～13時です。

会員の皆さんは、健康の維持・増進のために食生活に関する楽しみと会員の相互のふれあいを図ることにより、心身ともに健康的な社会生活を送れるよう、食を通して健康づくりを実施することを目的としています。

次の項目についてお聞きしました。

(1) 参加するきっかけは？

- 妻を亡くしたことがきっかけで、2年前から受講しています。
- 他の料理の会にも入っていて、できるだけ奥さんに世話をかけたくないからです。
- 定年になり、時間に余裕ができたので参加しました。
- ネーミングが良かったので、入会しました。
- 食生活改善、成人病予防等でバランスの良い食事ができるようになりました。

※きらら館のトレーニングルームを利用されていた方が多いようです。

(2) 家で料理を作っていますか？

1名の方がいましたが、やっぱり台所に入るのは女性に遠慮してしまうようです。

(3) ヘルスメイト(食生活改善員)さんからの一言です。
会員の男性は手早やで厨房に向いていると思います。

とてもおいしく
できました！



男の料理教室(国分寺クッキングクラブ)

「男の料理教室」の会員は23名で、食生活の改善を目指し、仲間づくりをしながら月1回料理教室を実施しています。

また、市社会福祉協議会で実施している、70歳以上のひとり暮らしの方対象の「出会いふれあい」においては、ボランティアとして毎月1回2名ずつ交替で、ヘルスメイト2名と一緒に、汁ものと惣菜を提供しています。



ゆうゆう館にて奮闘中

次の項目についてお聞きしました。

(1) 参加するきっかけは？

- 退職後の友達の輪を広げるためです。
- いざというときの備えのためです。
- 市の広報紙を見て、やってみたくて参加しました。
- 妻に先立たれ、どうしても自分で料理を作らなければならなかったからです。

(2) 家で料理を作っていますか？

- 「おせち料理」を作って家族に好評でした。
- お昼を作っています。

(3) ボランティア「出会いふれあい」は？

- 美味しいと喜んでいただけるので、やりがいがあります。
- 作るのが大変楽しいです。

(4) 今後の活動については？

- 高齢者の食事内容や病人食のレシピを研究して、症例にあった食事を作っていきたいです。
- 会員を増やしたいので、是非入会してください。



ボランティア「出会いふれあい」

料理教室の取材を終えて！

健康を考えると「食」は、重要なキーワードになります。

自分の体の中に取り入れる物に少し関心を持ってみませんか。

料理をすることは、自分自身の健康を管理することになり、生活の自立の一步にもなります。今回お会いした男性の皆さんは、料理を楽しみながら、作っていました。

あなたも、一杯の味噌汁から始めてみませんか・・・！

担当：井上永子・楡木久美子

あたまの体操！おためしあれ！！

ジェンダー川柳

プロポーズ あなたが私に ついてこい！

家事をする 父の背中を 見て育つ

兄弟が 集まるとない 嫁の席

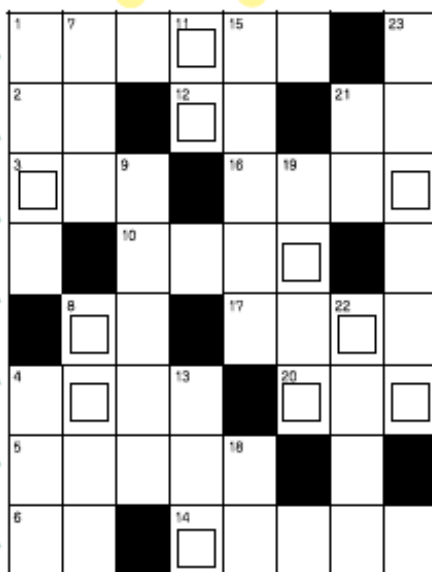
(バルティとちぎ女性センター発行紙から)



川柳を募集しています！

編集委員会の新企画として、ジェンダー川柳を募集します。あなたの作品が情報紙に載るかもしれませんよ。

下記（下野市総合政策室）まで、ご応募お待ちしております！



縦のカギ

- 1 ナルシストの語源となっています
- 4 ○○○にかけて育てた花はよりいっそう綺麗に見えます
- 7 大福の中に入れるなんて誰が最初に考えたのでしょうか
- 8 秋の七草。アザミ嬢のララバイにも登場します
- 9 美人のたとえで牡丹や百合の花と並びます
- 11 酔っぱらいのことを大○○ともいいます
- 13 加賀で生まれた焼き物
- 15 花を分解する時には欲しいですね
- 18 絹の原料と言って良いかも
- 19 まずは○○○○として雑用からという世界もあります
- 21 餅つきと言えば杵とこれ
- 22 センブリは昔から○○○○用として使われています
- 23 桜の開花と言えばこの種類

横のカギ

- 1 赤いのが有名なマメ科の花
- 2 植える○○も考えておかないときれいな花壇にはなりません
- 3 骨はそのまま輪切りにします
- 4 その役に適した人
- 5 ここに花を飾るとご飯も美味しくなります
- 6 王 貞治と言えば世界のホームラン○○ですね
- 8 秋の花で、食用にもなります
- 10 ガーデニングを始めたなら○○○○になりました
- 12 贈答用の花といえばこれ
- 14 綺麗な花を育てるために定期的やりましょう
- 16 花の水やりには雨水を使って○○○○しましょう
- 17 連休と言いつつ連なっていない
- 20 2006年冬季オリンピック大会の開催地は？
- 21 昔は花見と言えば桜ではなくこちらでした



□枠の文字を並べ替えて、下記の言葉を完成させてください。
男女共同参画へ一歩いっぽ。
「○も○○る」こ○へ○○づ○か○広○○界が開けます。

●ご意見等を募集しています！

男女共同参画情報紙「シェアリング～わかちあい～」に関する皆様方のご意見・ご感想を随時募集しています。また、男女共同参画に関して、身の回りを感じていることなどもお寄せください。お待ちしております。

編集後記

紙面を一新しました。いかがでしたか？印象と記憶に残った記事はございましたか！？この情報紙が皆様にとって何らかのヒントにつながれば幸いです。当編集委員は前回の第4号の発行をもって、第1期2年の任期が終了し、編集委員6名のうち3名の方々が入れ替わり、第2期目の編集委員会が更なる一歩を踏み出しました。古くから「十人十色」という言葉がありますが、男女共同参画に置き換えると「一人ひとりが違う事を認め、それを尊重する」という意味ではないでしょうか。「自分らしさ」は確かなその人だけの一つの色です。

私たち編集委員もそれぞれの視点で、「六人六色」の個性を発揮して、立ち止まることなくより一層紙面の充実を心掛かけ取り組んで参ります。今後も本紙「シェアリング～わかちあい～」をとおして「男女共同参画社会」を身近なものとして、関心をもっていただければ幸いです。加えて、多くの方々に興味を持って読んでいただける紙面づくりを目指していきます。これからの2年間もご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

<編集委員> 松本文男・山口容子・井上永子・中川美恵子・楡木久美子・楡木悦夫

クロスワードの答え：「ともに生きる」ことへの気づきから広い世界が開けます。

企画・編集 下野市男女共同参画情報紙編集委員会

発行 下野市総合政策室

〒329-0492 栃木県下野市小金井1127番地

TEL：0285-40-5550 FAX：0285-40-5572 E-mail：sougouseisaku@city.shimotsuke.lg.jp